

共武十本

成形圖說

菜蔬部

二十八



特別
二一
144
27



加二門
號/44
卷28

成形圖說卷之二十八

目錄

菱蓮

附錦邊蓮

雙頭蓮

千葉蓮



成形圖說卷之二十八

成形圖說卷之二十八

菜部水菜類

波ハ

知ナ

須ス

知書

乃紀

多〇

知今

枝畧

かして

どて

波ハ

須ス

と

ひ

又

波

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

池ヲ

見ニ

知書

乃紀

多〇

知今

枝畧

かして

どて

波ハ

須ス

と

ひ

又

波

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

麿ヲ

見ニ

知書

乃紀

多〇

知今

枝畧

かして

どて

波ハ

須ス

と

ひ

又

波

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

露ツ

堪

州

はに

〇う

以ら

上ふ

藻藏

礼塩

和如

〇教

集

水

乃

花

合

注

荷

花

一

名

水

花

古

水

花

古

蓮

水本

果州

部〇

字通

礼塩

和如

〇教

集

水

乃

花

合

注

荷

花

一

名

水

花

古

水

花

古

蕖

水本

果州

部〇

字通

礼塩

和如

〇教

集

水

乃

花

合

注

荷

花

一

名

水

花

古

水

花

古

古

今

芙蓉

雅以

說上

文爾

〇

荷

花

注

毛

作詩

〇

古

今

水

芝

水

花

崔

以

上

芙蓉

芙蓉

成形圖說卷之二十八

二



小蓮
チヤワシム

これバ彼方を既く蓮とのいひ習せしあり○此の
 藕子通孔て茹子筋縁を裁むそ大小ひとしく節あ
 子一葉一莖と出以又根鬚あり俗子一月子一節づと
 生し間隔あり年ハ十三節わりと一應月閏月益一節
 ○凡一節子二莖と生以そ一と波知須乃浮葉と云
 やどや葉をゆれ花蓮即水艸の藕荷あり亦貼荷葉
 子こりや浮葉ありん即水艸の藕荷あり亦貼荷葉
 生以と蓮乃苗とつ花鏡謂藕秧あり又浮葉の嫩く小
 多と稚葉とつ内膳式稚葉七十五枚と尺ゆま本集の
 わり葉子まこめくこ本艸の荷銭なり亦公荷と云
 成
 形
 圖
 說
 卷
 之
 二
 十
 八
 四

荷錢象形○山谷贛上食蓮詩實中其一と波知須乃立
 有公荷拳如小兒手注公荷謂小葉其一本集於此他名風ちらし
 枝又波知須乃立葉と云夫本集於此他名風ちらし
 本艸の芰荷あり子月み生て水と推て植との球いふ
 この立葉の旁ふ六月莖と出しく七月花と発くおと
 時珍所謂花葉常偶生不
 偶不生故根曰藕是也
 花子は教の色あり白紅粉紅
 の三ふと止也とし白として上等と記心子黃鬚あり
 即莖みて也さ一寸許此莖蓮房を抱くなり本艸の蓮莖
 鬚一名佛座鬚あり又蓮花鬚蓮
 鬚と名いふ○蓮ハ水艸の中其莖
 者ふして葉と色と實と該備れり溪蓀かど形劣るみ
 はあゝ絲と蓮花み比ぶればふいふしとて其母は

白身炎熱の如の穂照志くくのやあべ池の灯み徜徉よ
 れハ若妹子が裾吹風のたあやみ志ぶるりわ此香か
 どいどぐえあゝぬ折しと白雨あんだの一志をれ階色
 ればほせと問ひし白玉のをち枝乃繁末またゆきふハ
 さかから後と先づの態まで時お好もひ出らるべし緑
 水江蓮一朶開干花萬艸無顔色とから詩打喟つてやば
 濁るるあよあ出て水ありと浄蓮の客乃志く玉也
 氷とどりくあるべし氷寒江の凝結する泥の中より生
 られども性ハ純陽の英氣とかん稟好しうば好日日光
 に向く荒あ午と色もば復欽むみ花さるば即寔は花

謝ハ房尺一房成バ交ハく其房の形ハ噴壺シヤク子似ク
 初ハ葉子終ル葉ハ葉蓋ウラカサ子類テ界紋キケンハ細ク
 赤ク後ハ莖コノと生ナに縹緑シヤクとある其莖ハ中ナカ通トウリ外ソト赤ク刺
 肉ニク白ク心ココロ生ナ意イと飛トビし藕コウより萌芽モウガを展轉テンテン生ナ造化シヤク不息
 の妙理ミョウリと具存クソンとこちなく稱ホメしとさるサおと也彈タン説セツの
 碧巖セキ子荷葉カハの水と出デる時トキいっん曰蓮花レンカ有アルの蓮花レンカの水
 と出デざる時トキいっん曰藕コウ葉ハと問答モンカウせしハ邵子シヤウシが用
 ハ天地テンチの先マ子終ハり終ハて地チの後ノチ子立タとつツひるん終ハ用
 一源イツゲンの潭タン子習シユひしあるアルべし○此コノもの和唐ワチウの二種ニシュウ大小

の西品セヒン何ナニも長丈チヤウ餘ヨリ子コぶフりノと大蓮ダイレンとつツ小コなナぶフる
 此コノハコ多タりシばバも花葉根カハエネ実ミ亦モト亦モト多タにニ稱ホメへル○一イツ種シュウ茶
 益蓮イクレンとつツ小コ里リ花カの徑キヤウ二三寸ニサンシユン盆ハシ盂ウ子コ植ウて几キ案アン此コノ佳ミ観カン
 と名ナをナ呼コぶフ者シヤ遊ユ畧リヤクの清セイ賞シヤウ子コ是コノ多タりシばバ大ダイ抱ボウ野ヤ生セイと紅
 花カの者シヤハ蓮房レンボウ多タく藕コウ劣セウ子コ是コノ多タりシばバ白ハク花カの者シヤハ蓮房レンボウ少シヤウ
 多タりシばバ藕コウ劣セウ子コ是コノ多タりシばバ花カ白ハク子コのハ香カウく紅ベニハ蛇ヘビハ千チ葉ヤ乃
 名ナをナ法ホウババとト大ダイ蓮レンのノ子コハ和蓮ワレンのノ子コハカ榎ノ子コハカ子コハ
 如ニ唐蓮タウレン子コハ稍シヤウ小コく多タりシ
 蓮レン乃ノ莖ケイ和名ワナ蓮莖レンケイ通稱トウケイ
 蓮レン茄カ和名ワナ鈔シヤウ引イン爾ニ雅ヤ其キ莖ケイ茄カ○字ジ典テン
 云クニ茄カ通トウ荷カ師シ古コ註チュウ茄カ古コ荷カ字ジ
 荷カ品ヒン字ジ箋セン○時トキ珍チン云クニ
 莖ケイ乃ノ負フ葉ヤ者シヤ有アル負フ

ましといふはと時人傳子つばり子裁り人、此中よ
蜘蛛の糸と線の出るとハ蓮絲と深出せしむるはかく
ハ表類ふ出るづし又奇志むみ是らむや但我 君氏
寛政戊申の歲始る蓮布を製する先母池此蓮茎若干本
と採て宮内子波さしめ云ふ存採て一把としそ茎と
折り、從て莖中の絲を率出し此布と水子漉し純緝た
て、両旁乃縁みは蘭絲おのく二縷けくと藍線子加ふ
こは蓮絲の性脆その抄糸を絶ぐぬ為の汁と以て緯
子みハ金く蓮絲のみ用ひきりかくし外端の善機匠
をるものとしてこ布を織る其は亦全く布縷乃製み

異あゝ初て試み織る所此者長一丈五尺幅九寸也
之以一端とを其一丈と云ふハ 今公兜盛の浮媛胃此
ぢりは存引立高帽子ハ陣中此胃ふてむかしは軍營と
いつぢり高帽子を垂と着て乳容と失を因て胃を綴て
大将の前み出るにハ折さしとたる高帽子と並み戎衣
引たてさるそき制からんと谷川氏ハ一尺
此襯衣とすてこ身以珍藏とを五尺をとるは畫匠
小命やく佛像を圍繪て曼荼羅と騰寫こ身と寺觀み施
せり其餘ハ皆人の請ふ所子種遺子子もの所とつみ
臣國柱 謹按み我 君氏好速の貴子豐富乃安み居て 君
ハ故堤中納言藤原代長卿 齋服の成憲と仰み締裕の勤
の中女 今公の親母なり 侯と慕ひ躬紡績の功と効し内治の化宮換み被り女紅

の事備さるばるし其餘緒逐み蓮布の製と試とむひ又徑
て俗説の煙談と弭ら子庶哉望しべし彼中將始の蓮
其跡と奇みせんふと改換一怪談妄作又布と織るが
の身多し蓋方便法如一食長齋精進念佛每日書撰受經三
中將難剃髮名法如一月筆法計千卷依此功德求見佛真身七日在
堂一心祈請斷食水穀以死自誓時六月十一日至十五日在
日中過忽有屈法相偉麗而至法如何久所願也何時寫出
方來我寫極樂莊嚴相為君者如何云成就法如乃告藤公奏
令我得見屈云須求蓮莖百馱乃可成就法如乃告藤公奏
請于朝敕許十八須求蓮莖百馱乃可成就法如乃告藤公奏
屈折莖作絲穿寺東北一穴為井以絲入井染之五色燦然
二、十三日酉刻忽有女甚端嚴來問曰絲成否尼云已成手
自付女女接云最好今夜即織今暫歸去至戌刻持織具來
尼亦營為共事子丑寅三時中用油三升酒三把法如燃
之機持之聲清微四更織成天曉女出庭前斫一竹為軸竹
乃一夜之中所生長一丈五尺無節卷而為軸持與尼徑去
不現尼掛之中堂指圖中依正等境示法如復禮三拜唱偈

曰往昔迦葉說法所今來法起作佛事感君懇志我來此一
至是場永離苦既而尼告歸此時法如聳然私念適化女不
言而去今此尼亦或復然急伸手執尼衣袖白言善哉知
識是何人哉如是滿我願又適前歸之女是誰屈云我是
方極樂世界教主阿彌陀如來適所還女是我左脇觀世音
也伸手三摩法如頂云再遇不遠却後十三年三月十四日
必迎汝即從座起至二上岳隱矣至十三年三月十四日
當室龜六年三月十四日如所期而寂也云々或云老尼乃
連續紀子宮裡新羅の尼理願の屬ありと云々或云老尼乃
蓮茹と宮裡の法也の理願の屬ありと云々或云老尼乃
まじと煩悩の所を離れ初より令しと云々或云老尼乃
此功徳の妨げを去るに専らと云々或云老尼乃
の素行の仁愛の恩意の如くと云々或云老尼乃
乃曼荼羅の十徳の如くと云々或云老尼乃
業の種子の如くと云々或云老尼乃
法不空の如くと云々或云老尼乃
らるるの如く

波奈婆知須古事記 蓮乃華 蓮乃荅

芙蓉和名鈔引兼名苑注蓮花也 菡萏說文未發為菡萏

猶含也未吐之意 時珍云菡萏函合未發之意 蓮花目細

花鏡云其莢曰菡萏按廣韻華內曰萼華外曰榮 蓮花

難產催生蓮花一葉 書人字吞之易生

世継地津子園白道長公の菖花の程をいそむとて子と
せの事乃露秋乃露も立くさしど風を動きあらし
て枝と時さぬむらゆりゆりゆりさみまがごとく目出さき事
うどん花のおとく水子まきくはきはきは蓮世子をまき
て匂ひくさるもあまびあきかかしとるくさるもあまびあ
くそあゆ水玉乃小櫛に源氏物語は儒仙あどの吾徳の

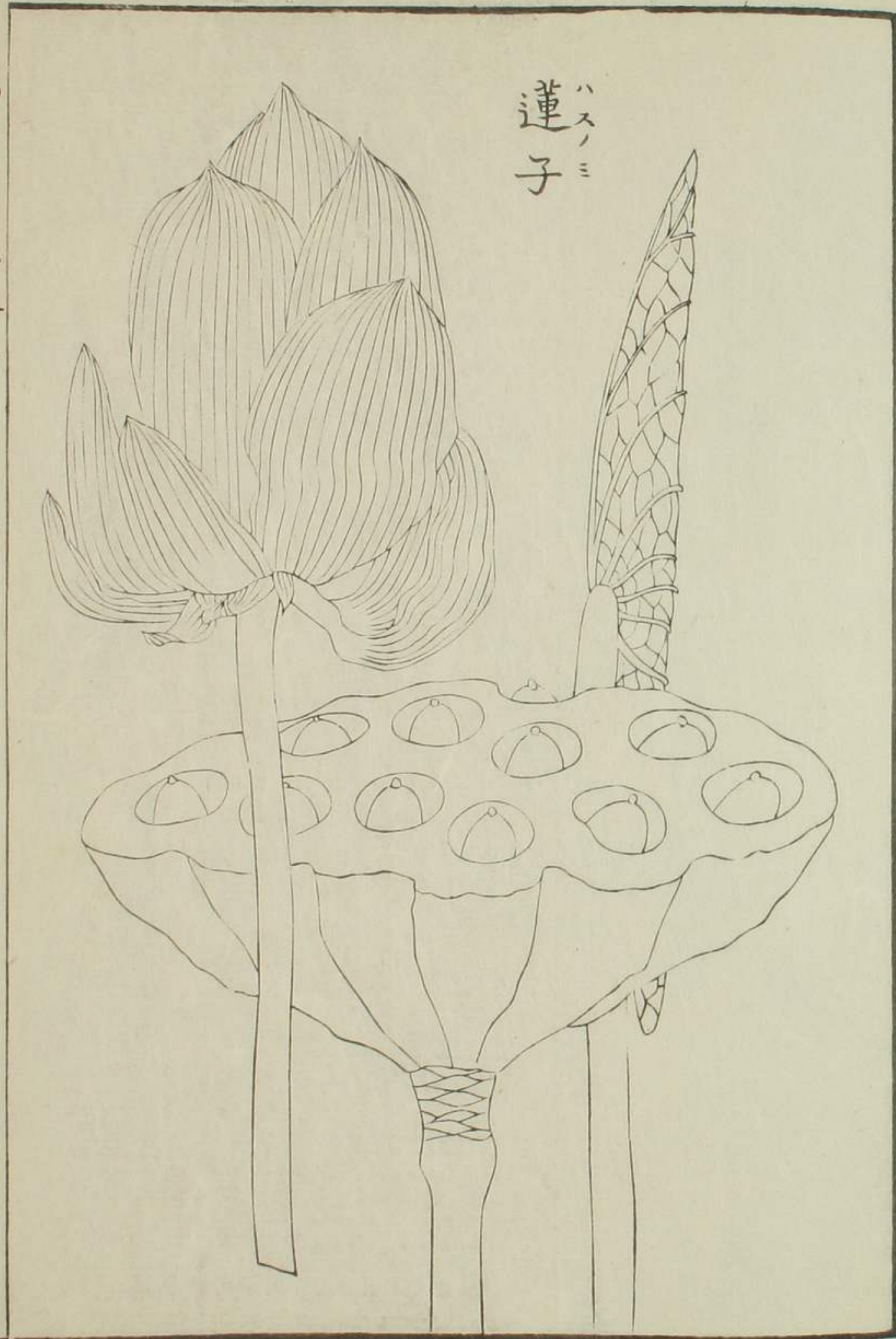
論はまばゆく差しきてはしと物さくむ只物のあわれ
をまけるくさのお子を取たててよしとはまける也此
意とくと物と替て云は蓮は極て愛んとする人乃濁り
て穢あはれはあれど泥水と多く貯ふるおぬし物語の
不義なる恋と書ゆもそ濁りて泥をぬぐみハ誰ぞ物
乃あゆみの花と云へん料ぞ驚し源氏の君れあまひ
ハ源よりおひおひる蓮乃花れまよめてく咲みぬ
くさる物とてその水れ濁るおととば指を言ひ只情
深く物の感を知りくさる物ととりのくさるお人の存に
まきくさるおと今あんや文也夢溪筆談云菖品中蕪菖菖芥

之類遇旱多結成花或作龍蛇之形熙寧年李賓客及之知
 潤州園中菜花悉成荷花仍各有一佛坐于花中形如雕刻
 李君之家奉佛甚厚因有此異又齊東昏鑿金為蓮貼地令
 潘妃穿寶屐行其上曰此步步生蓮花也又唐の張昌宗り
 姿色を以て天后の幸せしめしと揚再思と云へしが今
 ひとのふ郎がさぐる蓮花の似しつゝつと知むるハ非あ
 ぶ蓮花が却てふ郎の似きふと誤ふ也一とむらしハ
 蓮花と海棠もよまざる賞玩の處と也忽そ東昏則天
 とむの淫戯をなして國を礼し色を耽り穢と彰せしを
 此が汚名を穿ち朽せえぬ大清諸州水方云七月七日

採蓮花七分八月八日採蓮根八分九月九日採蓮實九分
 陰乾下篋每能服方寸匕令人不老○灼艾爛瘡の花を
 貼てよし廬山集云遠法師下僧惠要者患山中無刻漏乃
 於水上立十二葉芙蓉渠因彼轉以定十二時晷景無差
 波須布佐蓮乃殼

蓮房 爾雅註蓮 蓮蓬殼 綱目

蓮房と食ふハ嫩子時皮と蒂と去灰と入煮以湯又清
 水にて煮て灰味と去焙乾し掛て石にて乾め片は食
 ふ 蓮生○痔漏と治るハ蓮房牽牛子各八當飯二細末
 八 煎 一 づ 空心湯を服用 和方 萬方



蓮子

蓮乃實新撰字鏡其訓ハ和名鈔子按ハ〇博日記
 加知須乃美也本艸和名〇按加ハ衍字
 乃芽也蓮子の心
 蓮子和名鈔引爾雅
 蓮實荷葉其實蓮
 蓮實は内膳式子蓮子二十房蓮の子は生み食ばみし
 九月子むの房枯子黒く堅こと石れ如し菓子殻と剥
 去了葉中子あせと蓮肉といひ亦石蓮子石蓮肉といひ
 ふ水子浸し青皮青心を去る生みとあし陶弘景云藕
 實即蓮子八九月采黒堅如石者乾搏破之圖經云其莖至
 秋黒而沈水為石蓮子按本艸從新云石蓮子産廣中樹上
 又南寧府志云石蓮子生藤云々此

蓮子和名鈔引爾雅
 莖爾雅
 蓮實爾雅
 蓮乃蒂即荷葉
 波須須艸
 蓮波



二説ハ並ニ物アリ此間葉中の石蓮子にあり
 茶舗ハ石蓮子といふもの或ハ實品あり
 實中心を意といふ青白二分の小子青芽也
 吐とちやと云古詩士無棄苦心石蓮子不老不滅の性
 を存するもの石土中り埋る好百年生活に於て新
 物の如くなるもの注し
 年者食之不老也又雁食之糞于田野山巖之中不逢陰
 雨經久不壞人得之每且空腹食十枚身輕能登高涉遠也
 ○煎塩戸此塩の成や否やと試みは此蓮子を用ふか
 子即石蓮子也將ハ鹵鹹と煎ては先竹筒に蓮
 子と内海水と承て筒中に沃み塩の成を子の中ハ蓮子
 中に浮して筒口より浮み且上好乃塩成ぶまを此ハ
 成

浮上る勢極疾して筒外に逸出せ下等の塩は徐達
 として浮むありかく歳さひも更試ふと子蓮、子乃浮上
 らぬもの塩とやうさうの泥あるが故そよ、お棄る
 六と也若保てふと煮さば竈吹動して破裂ふとあり
 是塩を造者の要法あり細目蔵器曰石蓮子入水必沉惟
 百年、不壞人得食之令髮黑不老印本煎鹽鹵能浮之此物居山海間經
 二煎、鹽鹵能浮之と讀せしハ誤なり今按西漢叢談云
 閩中之法以雞子桃仁試之滷味重則正在上鹹淡相半則
 二物俱浮と志われバ雞子桃仁めても又鹵試つるし
 蓮子味甘性平ふして毒かし○主治中と補の血氣と益
 以州本○二聖散精と失し或ハ漏泄し久して虚さるる子

は蓮子心撮一辰沙一細末し毎に二匁許空心の時白
 湯ふて飲べし瑞竹堂方○石蓮肉蓮子六一湯心經の虚熱小
 て小便赤く濁るるハ石蓮肉心と連ぬ甘々一湯
 み煮し飯に捧心○蓮子湯虚勞の吐血及蓮子去心糯米
 并細末し酒ふる服方安○齒の浮ハ蓮肉塩各三水み
 てよ子種み煎し服べし和方一
 波知須婆万葉集○又歌み蓮の昔葉蓮
 葉蓮喜式延ハス、ナ、ハ
 蓮葉史記龜策傳龜千歲遊遊和名鈔引爾雅其葉
 葉を飯み和て茹ふべし先新し子葉と釜底み布て飯と

畏く炊つて飯イヒキ黄み清ヨキカ香ニルカ愛ヒスを食し今潤ニル身シ丸丸の糊糊と
かきよの是也又蓮ハスノハ葉飯中ハスノハ雑ニスリツク肴ニと紀ニ花ハと湯ニみ煮く
て汁ニみて炊方ニ多ハ飯ニ味ハ醬ニの敷ハを包ニじ暑月
を傳ハらむとといふ大炊ハ式ハに荷葉ハスノハ三百枚ハスノハ宇ハ蘭ハ盆ハ用ハと云
今俗ハ子ハ中ハ元ハ乃ハ日ハ祭ハ祖ハ時ハみんハをハ盆ハにハ饗ハ具ハ盛ハのハ古ハ風ハをハ
紀ハ祖ハ今ハハハ精ハ靈ハ祭ハとハつハ初ハ盃ハ蘭ハ盆ハ會ハとハ推ハ古
て暮ハ春ハとハ冬ハ至ハにハ先ハ祖ハとハ祭ハ人ハのハ也ハ非ハ代ハ蔭ハ樹ハ草ハ子ハ先
祖ハ祭ハ之ハとハ祭ハのハ祭ハ人ハのハ祭ハ也ハ非ハ代ハ蔭ハ樹ハ草ハ子ハ先
前ハ祭ハとハ祭ハのハ祭ハ人ハのハ祭ハ也ハ非ハ代ハ蔭ハ樹ハ草ハ子ハ先
名ハてハ水ハ棚ハとハ祭ハのハ祭ハ人ハのハ祭ハ也ハ非ハ代ハ蔭ハ樹ハ草ハ子ハ先
の意ハ也ハ又ハ火ハとハ祭ハのハ祭ハ人ハのハ祭ハ也ハ非ハ代ハ蔭ハ樹ハ草ハ子ハ先
靈物ハかハ盆ハ字ハ又ハ無ハ者ハ落ハ後ハ見ハ老ハ學ハ菴ハ筆ハ記ハ曰ハ故ハ都ハ於ハ中ハ元ハ具ハ
要ハ覽ハ而ハ盆ハ字ハ又ハ無ハ者ハ落ハ後ハ見ハ老ハ學ハ菴ハ筆ハ記ハ曰ハ故ハ都ハ於ハ中ハ元ハ具ハ

素ハ饗ハ干ハ古ハ先ハ織ハ竹ハ為ハ盆ハ盃ハ貯ハ紙ハ錢ハ於ハ中ハ承ハ之ハ以ハ竹ハ逆ハ焚ハ倒ハ
以ハ視ハ方ハ隅ハ而ハ占ハ冬ハ之ハ寒ハ爇ハ謂ハ之ハ盃ハ蘭ハ盆ハ乃ハ知ハ風ハ俗ハ祀ハ先ハ全ハ無ハ
佛ハ氏ハ昔ハ石ハ榘ハ系ハ子ハ食ハ地ハとハ盛ハとハ同ハくハ菴ハ系ハとハ用ハひハしハと
之意ハ也ハ昔ハ石ハ榘ハ系ハ子ハ食ハ地ハとハ盛ハとハ同ハくハ菴ハ系ハとハ用ハひハしハと
ろえハとハ其ハ食ハ地ハのハ傷ハざハるハ加ハみハ取ハりハしハあハべハしハ萬ハ葉ハ
集卷十六に載ハしハ時ハ府ハ家ハ備ハ設ハ酒ハ食ハ饗ハ宴ハ府ハ官ハ人ハ等ハ饗ハ食ハ盛ハ
之ハ用ハ荷ハ葉ハ諸ハ人ハ酒ハ酣ハ歌ハ舞ハ乃ハ開ハ其ハ荷ハ葉ハ作ハ此ハ歌ハ歌ハ子ハ久ハ堅ハ此ハ
雨ハとハふハぬハらハちハとハふハたハまハるハあハのハ玉ハ子ハ似ハむハるハん
のふハしハへハ質ハ素ハのハ風ハ情ハ亦ハ想ハひハるハるハ魚ハしハ後ハ世ハ歌ハ學ハ未ハ流ハ
織ハ鹿ハ媒ハ於ハ漁ハ色ハ靡ハ曼ハ漸ハ于ハ誨ハ淫ハのハ類ハとハ日ハ哉ハ回ハりハてハるハ乎ハ
魚ハりハとハ又ハ續ハ紀ハ光ハ仁ハ天ハ皇ハ宝ハ龜ハ五ハ年ハ八ハ月ハ始ハ設ハ蓮ハ葉ハ之ハ
宴ハ後ハ紀ハ延ハ曆ハ十ハ二ハ年ハ八ハ月ハ既ハ蓮ハ葉ハ宴ハ飲ハ奏ハ樂ハ賜ハ祿ハよハしハるハとハえ
成ハ形ハ圖ハ說ハ卷ハ之ハ二ハ十ハ八ハ
十五

くろ西土モロコシももきも似につるこど何り淵鑑類函ニ載を拾遺記云歐陽修在揚州會客取荷花千朵挿畫盆中圍繞坐席命客傳花人摘一葉盡處飲酒云々真ハ何ハ白ハべりわさかゆり○應永廿三年正月伊豆國三島池ハ荷葉ハ生ハくり先例六、乱の北也ト云ハく枕冊子ハもすの浮葉ハのらうさけみハ可愛トいハのどろハ澄ス池ハ北ニ面ニ大キあリ小キ花ハひるごハ潔クひテつル言ハおハしハ丸ハあリて物ハおハしハあカどしハくハるハもハいハみハくハれハし○脱肛ハ不ハ収ハるハ蓮ハ乃浮葉ハと焙キ粉ハみし酒ハて服スことハ赤ハ多クるハの葉ハもハ粉ハと盛リるハもハぬテこれハ泥ハを○漆瘡ハは葉ハを乾シ

湯煎して洗ハふハし蓮生八ハ錢日金蓮花夏採葉梗ハ浮ハ水面湯焯薑醋油拌食之ハ園ハ林ハ益ハ泥ハ蓄ハ水ハ種ハ之ハ但取ハ二ハ色ハ重ハ臺ハ者可ハ愛ハと葉梗ハと食ハとのハ此ハ種ハもハやハ但ハ今ハ○小兒臘梨根ハ洗ハるハみハ蓮葉ハ燒キ白梅肉ハ分ハ各ハ等ハ加ハ減ハ子ハ煉キ了ハ穢ハ梨根ハに附ク但ハ口ハ上ハ來ハ愈ハかハるハもハあハし附根ハ大ハまハるハに附ク口ハいハくハあハもハ青桐ハ錢ハと附キ茶ハ編キハハ錢ハふハこハ以ハ附ク口ハいハくハあハもハ膿ハ出テ洗ハるハありハ也ハ白ハ汗ハ附クるハをハ陰ハ子ハハハ洗ハおハとハいハぶハし附ク口ハいハくハあハもハとハ錢ハとハ洗ハいハけハハハ酒ハの粉湯ハみテ按キ出ハし熱ハして洗ハふハ一度ハみテ愈ハかハぬハバハ又ハ附ク口ハいハくハあハもハハハ必ハ愈ハるハありハ○又方粟餅ハとハハスハにハ又ハカハ針ハとハてハ錢ハと

子に以上子塩と知り又紙をこす〜と煮ぶしその
 後子此方と附くあり○又方瘰癧ハス子ハスのハスよし凡瘰癧連系
 山飯本石菖藤癭枝フギニフ莖カクタイ各等味子塩を少入て常の如く
 煮し洗ふ水の升めは薬味の多少子固べし○又方瘰癧子
 瘰癧黄と細末をしハスの穴子鉢沖みて入きてよし○
 腑骨淋ぬきの方連系威靈仙石菖薊葉フギニフ癭枝カクタイ六味
 別と子分をし水にて煮ゆりハ大服子煮して用ふ○癰
 とありふ時分の事ハ肉腐爛て臭き時あり洗ふそ方車
 前子蓮系桑本枝系共三味子塩少入てぬるくと冷わら
 子塩ハ常のくひ塩よりと少加らくとぶし○瘰癧子ハ

連葉とありて煮し洗ふべし○菖艸ハ蓮系甘艸ラン
 クワハナ粉ハナ昆布ハナ附ハナ南燭葉ハナ各等白梅ハナ五ハナ以上七味白梅ハナの肉
 とて丸の綿子包と含むべし○牙痛子蓮葉肥松枝ハナ莖
 紫根沈香ハナ分ハナ塩ハナ六味煮し極水と天目之壺つぎ二壺
 子煎し含むべし○三種菖の葉連系藍ハナ殿ハナ各二石膏ハナ一ハナ細
 末よし菖莖の表裏ハナ子針とつりひて指みて針固子搗附
 べし○蝨齒ハナ筋齒ハナ子蓮葉ハナ三塩ハナ一丁子ハナ粒ハナとありて煮し含
 むべし○又方白礬と蟹ハナ縛ハナの汁にて稠ハナ固ハナむ方の耳ハナ子耳
 肥ハナ一ハナちどハナのべし○大舌ハナ小舌ハナ子ハ次ハナ即重舌あり連系と
 ありて常の如く煮して含むべし○婦人血暈子ハ蓮葉

乾紅花艾之味等分水子て常の如く煮し用ふ或ハ那と
 少し加ふ○婦人產後胞衣下ざりハ蓮葉糖印末をし
 童子の小便をし用ふ○痔の洗ひ葉蓮葉糖印末をし
 味と煎し塩少入て能く洗ふ○吐血は鼻血は
 生地黄二味蓮葉を研地黄と末をし少入研して湯
 子用ふ○又方老蓮の葉燒蒲黃炒各印末をし白湯又
 ハ冷湯を少して七つづ用ふ○又方釜墨を細末をし冷水
 みて一度子二あづ用ふ下血便せし○白禿小兒
 洗葉蓮葉糖各等分を煮し頭と能く熨て而硫黃
 石灰二味布子包し麻油にて煎し汁と附るべし第一

禿子妙あり一上方○四味圓吐衄冷は服べからず
 荷葉生蓬葉柏葉の葉生く生地黄以上等分搗合て○是
 ねどに搗丸めて毎服二丸と水三盞入て一盞小煎し淨
 と濾く時と定めど鼻血ハナも良○一方馬車ハコより煎
 てるに腫み細と傷かひ損りて中院ハコ血止り熱い達
 ば鮮血を突き空に透は瘀血と突き或は豆と煮と
 ば汁の如く煮と空ハコ荷葉と艾ハコ乾かし印末し米湯小
 く是と内傷と各く
 て毎服二錢と服ぶし○產後ハコに身腫みは荷葉と煮て洗
 つよ○雙荷湯ハコ印末し血ハコをハコと荷葉ハコ藕節ハコの二味
 と蜜に漬て飽ハコ乾かし印末し水二盞入て八分ハコ煎し
 淨と濾て食後服二三服めハコ必ハコ愈ハコ上方ハコ

波^ハ知^チ須^ス乃^ノ根^ネ和^ワ名^ナ蓮^{レン}乃^ノ根^ネ京^{キョウ}歳^{サイ}東^{トウ}國^{クニ}以^{ヨリ}上^ノ藕^{コウ}也^ヤ蓮^{レン}波^ハ假^カ知^チ

須^ス乃^ノ波^ハ比^ヒ上^ノ同^{トウ}蓮^{レン}葉^{エフ}乃^ノ波^ハ比^ヒ躬^{コウ}恒^{コウ}集^{シツ}法^{ホウ}撰^{セン}集^{シツ}比^ヒ喜^キ伊^イ波^ハ

波^ハ斐^ヒ也^ヤ波^ハ衣^イ和^ワ漢^{カン}圖^ト會^{クワイ}波^ハ比^ヒの^ノ轉^{テン}ハ^ハ誤^ゴ也^ヤ延^{エン}喜^キ式^{シキ}伊^イ波^ハ

乃^ノ弱^{ジュク}根^ネ延^{エン}喜^キ式^{シキ}推^{ツイ}藕^{コウ}十^{ジュウ}五^ゴ條^{ジョウ}と^ト生^{セイ}字^ジと^ト波^ハ乃^ノ白^{ハク}久^ク支^シ字^ジ新^{シン}鏡^{キョウ}蓮^{レン}

乃^ノ芽^メ蓮^{レン}乃^ノ嫩^{ニン}根^ネ乃^ノ芽^メ立^{タチ}以^{ヨリ}上^ノ藕^{コウ}荷^カ水^{スイ}乃^ノ白^{ハク}久^ク支^シ字^ジ新^{シン}鏡^{キョウ}蓮^{レン}

藕^{コウ}爾^ニ雅^ヤ通^{トウ}作^{サク}藕^{コウ}玲^{レイ}瓏^{ロウ}玉^{ギョク}甘^{カン}珠^{シュ}雪^{セツ}藕^{コウ}蔬^{ショ}食^{シキ}雨^ウ艸^{ショ}蒙^{モウ}牙^ガ

玉^{ギョク}節^{セツ}蓮^{レン}水^{スイ}冰^{ヒョウ}船^{セン}冰^{ヒョウ}房^{フウ}華^カ井^{セイ}船^{セン}蜜^{ミツ}以^{ヨリ}上^ノ事^ジ玉^{ギョク}臂^{ヘイ}

龍^{リウ}稷^{シキ}寶^{ホウ}藉^{シキ}便^{ベン}覽^{ラン}舍^{シヤ}樓^{ロウ}伽^カ正^{セイ}字^ジ通^{トウ}藕^{コウ}蓮^{レン}藕^{コウ}池^チ泥^ニの^ノ底^{テイ}と^ト行^{コウ}と^トの^ノゆ^ユ忽^{コト}深^{シン}く^ク極^{キョク}ざ^サれ^レバ^バ採^{サイ}ぐ^クし

そ^ソ大^{ダイ}なり^{ナリ}ゆ^ユの^ノハ^ハ圍^イみ^ミ六^{ロク}寸^{サン}の^ノ京^{キョウ}沙^{シャ}ハ^ハ驚^{キョウ}く^ク大^{ダイ}なる^{ナリ}ハ^ハ胎^{タイ}壁^{ヘキ}の^ノ此^シと^ト

し^シ一^{イツ}節^{セツ}此^{コノ}莖^{セイ}荷^カ比^ヒ旁^{ホウ}子^シ花^カ茎^{セイ}を^ヲ括^{クワク}して^シそ^ソ花^カ弁^{ヘン}バ^バも^モ眼^{ガン}端^{タン}又^{マタ}

長^{チヤウ}き^キ尺^{シツ}計^{ケイ}莖^{セイ}荷^カ比^ヒ旁^{ホウ}子^シ花^カ茎^{セイ}を^ヲ括^{クワク}して^シそ^ソ花^カ弁^{ヘン}バ^バも^モ眼^{ガン}端^{タン}又^{マタ}

芽^メ長^{チヤウ}き^キ也^ヤ老^{ラウ}根^ネを^ヲお^オは^ハそ^ソ故^コ根^ネハ^ハ枯^コて^テ新^{シン}と^ト舊^{コウ}と^ト相^{ソウ}代^{ダイ}こ

と^トと^トなる^{ナリ}○類^{レイ}聚^{キョウ}雜^{ザク}要^{ヤウ}干^{カン}物^{モノ}五^ゴ坏^{クワイ}の中^ノ蓮^{レン}根^ネ乃^ノ日^{ニチ}次^ジ紀^キ事^ジ

曰^{イツ}種^{シュウ}蓮^{レン}根^ネ本^{ホン}年^{ネン}開^{カイ}花^カ其^キ根^ネ雖^{スイ}隔^{カク}年^{ネン}無^ム復^{フク}花^カ○螢^{エイ}ハ^ハ色^{シキ}白^{ハク}し^シ藕^{コウ}

の^ノ節^{セツ}端^{タン}より^{ヨリ}出^デる^ルと^トの^ノ也^ヤ七^{シチ}八^{ハチ}月^{ゲツ}ぐ^クわ^ワる^ル蔬^{ショ}と^トし^シ食^{シキ}ふ^フべ^ベし

粥^{シユク}垣^{ケン}の^ノ熟^{ジュク}子^シ蓮^{レン}葉^{エフ}の^ノち^チひ^ヒを^ヲ人^{ニン}ハ^ハお^オめ^メふ^フらん^{ラン}そ^ソま^マは^ハこ

ひ^ヒち^チの中^ノ子^シが^ガひ^ヒつ^ツ契^{ケイ}坤^{コン}曰^{イツ}莖^{セイ}葉^{エフ}は^ハち^チふ^フ地^チち^チれ^レバ^バ用^{ヨウ}と

そ^ソを^ヲ餅^{ヒナヒ}子^シ名^ナつ^ツて^テこ^コを^ヲあ^アひ^ヒり^リハ^ハ莖^{セイ}と^トち^チを^ヲ採^{サイ}食^{シキ}し

と^ト思^シえ^エる^ルこ^コの^ノ生^{セイ}み^ミて^テも^モ徒^ト臺^{タイ}の^ノ孔^{コウ}中^{チュウ}縁^{エン}多^タく^クて^テ甚^シく^ク稠^{チウ}し^シ今^{イマ}

凡^{マン}藕^{コウ}冬^{トウ}菜^{サイ}の^ノ候^{コウ}採^{サイ}食^{シキ}ふ^フ也^ヤ白^{ハク}花^カの^ノ藕^{コウ}ハ^ハ生^{セイ}み^ミて^テ食^{シキ}ふ^フも^モよし

紅花及野生の藕ハ煮蒸くよろし藕を煮み皮がら論
 ばふ軟みて皮を剥て瀾ば硬し是親く試みし取あわ
 煮み候蒸を忌む又醋とくらきバ黒色に變らむ○生藕
 とけききくらし汁とせり水花し藕物を製す又船耳の
 中何や西國米よりその藕を用ふと又藕を候と成し
 て食へバ下痢を治す蓮物を製すハ蓮肉を取去り多少
 子物らにあり浸て服かし紅皮を洗ひ去り其心は探と
 り去り水とくろ製て漿と成し絹袋子入て酒を漉して
 粉と水とく漂て洗水と去濁ると清て水を溜し又く包
 袱乃内子存て水と滴め干して晒乾に再び搗て束と成

し磁器貯收て聽用ふ蓮粉は膠中を補ふハ神氣を益
 壯し水穀と滑し肌膚を實ハ蓮生○煮凝ハ藕子蕨平茸
 思葉鼓捲湯皮或ハ蕨革茸薯蕷包豆腐皮の類と淡醬
 油にて煮冷し定ぬ或ハ空天と解和て暫く家バ凝結と
 のとつふ大皿かごに盛め花ハ你毒水仙色寒天等と何
 めくひ金柑酸醬の類と飾り加ふ又蜜柑子を用る俗
 敷乳柑と云香氣宜愛以會し○蓮ハ根葉花実葉心梗肉
 の八件子一として薬用子代ざるかし水葦中の料品か
 り俗子蓮根ハ七年の舊痕再び奈るとつふハ其功能の
 秀とつふ毒ありとむる子ハ何とむるし水戸乃

朱子瑜周茂叔と賛せし辞曰王安石以知慧術數逢其
 君為禍方烈先生委之不可爭之不能是故愛蓮以間神志
 推大極無極以寄肥遯意深遠矣後之君子不解其故又之
 己子古人比興の意佳く是なり但し周茂叔蓮を愛して
 花乃君子らし其不可褻翫焉といふその意味あると知
 り然し凡そ見る者ハ必弄玩を私り久しく惑溺み及べ
 ず佛氏の蓮を愛せんとて己まじ惑溺の中みありさ
 るや否や徒に弄玩するに過ぎざるの輩多し而して世人率
 蓮を以佛氏環内此物とし外視みおわつる亦惑ととい
 ふあるをし朱子瑜の如き道とみて大節を屈ざるの

濂溪のりて而後周子蓮を愛するの深意を其知を愈し
 瑜字ハ魯璣舜水と以て称れ本朝明曆中明國清み亡
 ころ舜水明主重興の命を受く然るに微み兵癘を
 て皇國に私に救援を請て恢復せんむと謀るま
 志と果さざる時國姓爺鄭成功が舜水に呼ぶ尺牘み
 台下倣株薇客而莫忘國恩の言を其志成ざれども彼
 胡清子使伏して節を失ふの位に視るは濂溪の一子の偉
 人あり故に宋の王安石も乃論人臣とありて其韻府曰
 君み貳あると無むの言言表るるべし
 蜀郡縣大竹截為筒盛酒閉以藕絲包以蕉葉信宿香達于
 外曰郡筒杜甫詩酒憶郡筒不用酌是なり
 藕味甘性平ありて毒なし○主治胃と孛子食と消し酒
 毒と解く又雜物ありても目と瞇はみ大藕を洗ひ搗て綿
 布に裏え汁を滴し月中に入きは出じ○凍肺裂折みは

藕と蒸し熱し搗たぐらして塗る以上○小兒大小便不通子ハ蓮根葱白生薑各等豆豉二十粒塩少味研合餅の如く扁厚して綿の中子押込上と衣みてるるべし和方

藕粉味甘く性平み〜毒無し○主治痢病の人及び崩

漏み用ひてふし本朝○十二時とハ晝

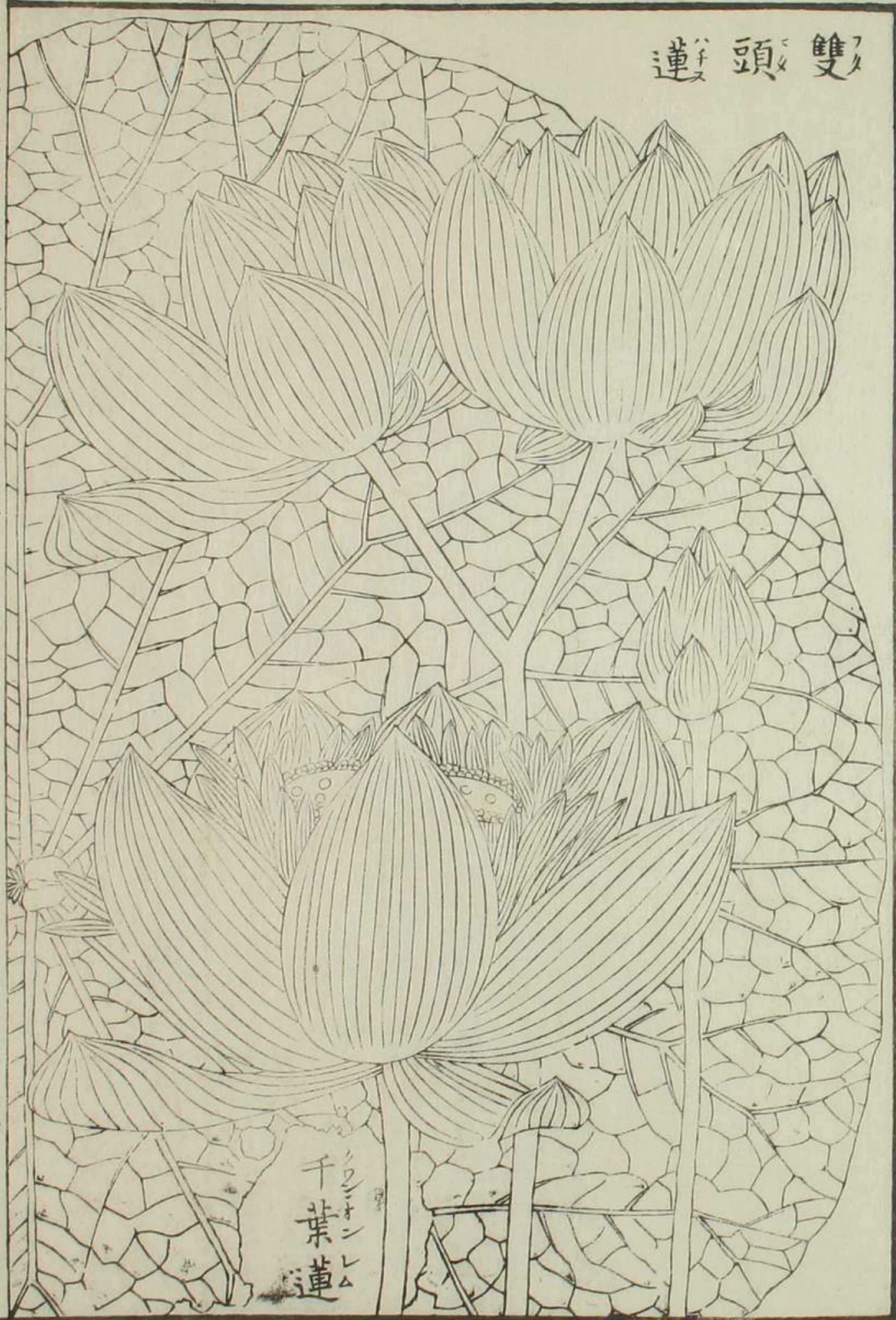
天竺蓮十二時蓮夜上隨觀寫真○十二時とハ晝

錦邊蓮花疏〇描子秘傳花鏡子蓮の異種二十殊品ハ

只壽ふ此之の白花おる葩の邊毎子一線赤此暈河を
花鏡云

此之の白花おる葩の邊毎子一線赤此暈河を花鏡云

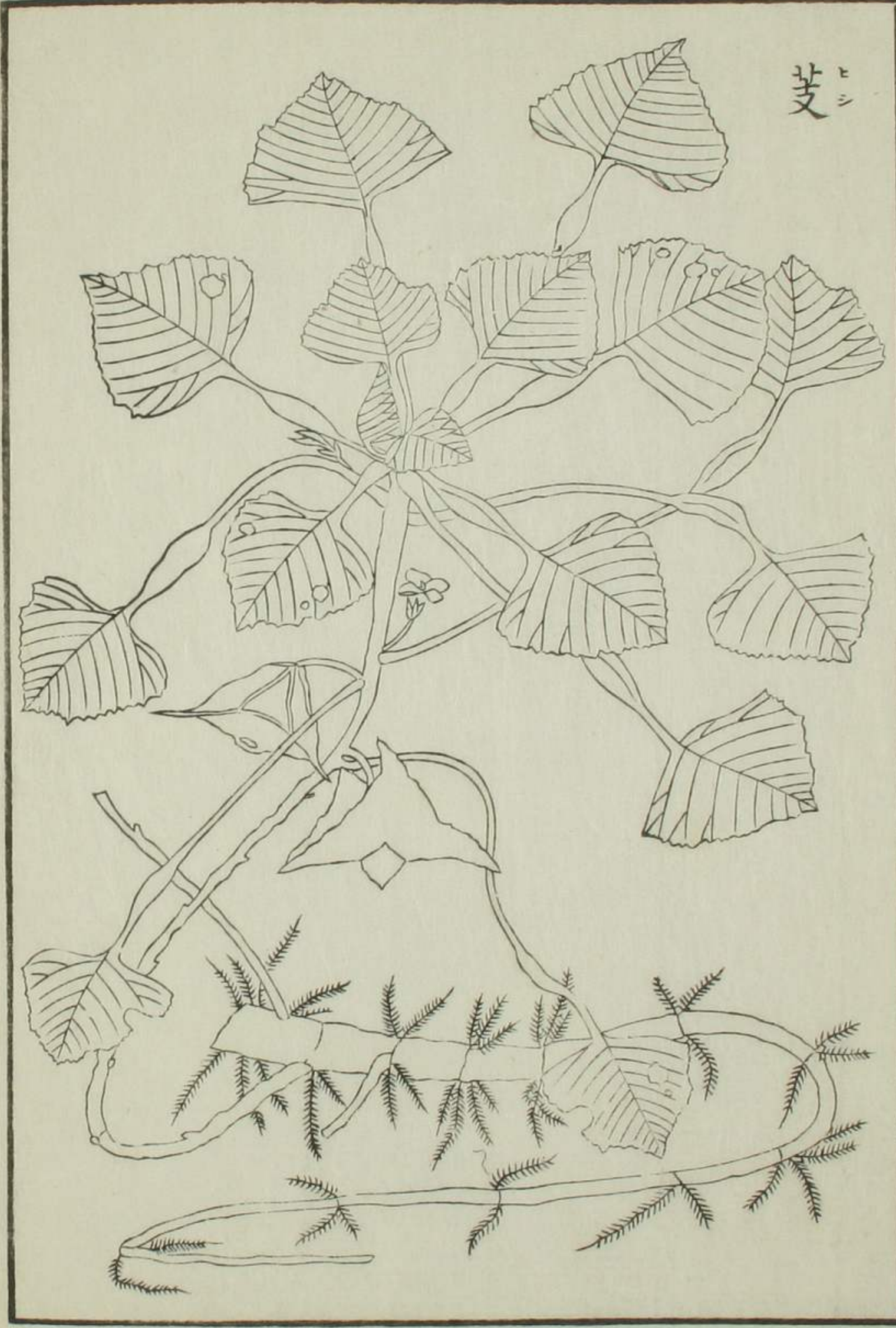
ふ暈此を益収萎びみ六日と経て後脱りて奇賞と
○又一種一幹子花十二本と并も河を近江必野洲郡
田中村の名主田中某家子十二時蓮ありを榮一房にわ
六花わわ白蓮あり是即後子る〜觀音蓮なり○
或云是奉天竺の種あり達磨より梁武帝子献るる所か
りと其説の迂ありや辨ふ子を〜は梅子達磨が持し蓮
小一枝め花を并子庭雪人腰と没出るに似と云寓言
子率預くる物ありし花疏云錦邊蓮蒂緑花白作葉時緑
色已微界一線紅矣間時千葉每葉俱以胭脂染邊真奇種
也



雙頭蓮

瑞蓮書 兩岐蓮 金絲蓮 和漢圖會 此乃線文 辨子て
 瑞蓮紀 金葉蓮 地錦 花辨子 金葉色 乃線文 辨子て
 雙頭蓮 雙蓮 草 以上祥 瑞蓮 皇甫 並頭蓮 嘉蓮
 以上群 並蒂蓮 百花草譜 催生 艸 網目時珍云 雙頭蓮 一
 芳譜 把 龍手把 之即生 舒明紀七年秋七月 瑞蓮生於 劍池 在大和國 一莖子
 二花 何里とんえ 又按皇極紀 三年夏六月 於劍池 蓮
 是蘇我 臣將來 之瑞也 即以金墨書 而獻大法 興寺 丈六佛
 云 蓋祥瑞 亦疾 按子 萬葉集 御佩 乎劍池 蓮葉 尔 澇 有水
 登子 的 勢多し 蓮乃 各地 なる 子 似
 と 詠 ぬ ぶ が ぬ 子 劍 池 い ぬ 蓮 乃 各 地 なる 子 似

菱^{ヒシ}



續紀 元明天皇和銅六年大和國獻嘉蓮と尺之其
 後三代實錄貞觀十二年七月從四位下行伊勢守多治真人
 貞峯獻蓮一莖二花○大日本史養和元年六月有雙頭
 蓮生法勝寺池○大治四年七月有雙頭蓮生鳥羽宮池○
 保延四年六月有雙頭蓮生勝光明院池又曰七月 上皇
 修孔雀經法於押小路殿襖雙頭蓮怪其後傳々尺之其
 稅近宝曆十二年江門寺上寺園山の蓮池に生れ隨親寫
 真未^{スヒラキ}發^{カレ}と^ハ双頭の蒼^{ササ}よく別^ワり既^イに満^ミ開^キを^シて^ハ一
 莖^{ヒナコ}のごとし○考經援神契云王者德至^チ於地則華^ハ草^{クサ}感^カ○
 群芳譜云竝頭蓮晉泰和間生^ス玄圃^{ソノ}謂^フ之^ヲ嘉蓮^{カレン}今所在有^リ之

賦の歌と畏る 宛相傳ふ蓮池の人の西の場と架はばを
 下ハ藕引長を成汗穢不潔と澆灌バ葉莖朽真こと此
 肥水のせよ差根子枯ぶ乾やうみ注沃ると培養の法と
 去蓮魔をよるありはづし方なり石盆などに植ふと比
 ハ藕芽隅角ハ衝當り此ぐるし又夏月水缸缸小平おし
 上より前渡をばも肥を交て夜盛なりとあり○盆種
 ちるバ啟壑の法先池の泥をと置其上を鋪平おて日
 晒の泥の昇圻を候ひをし雨ふるると知ハ是を掩ひつゝ
 春分に至り藕秧と束向あして 厚くハ枝既を南向み
 子拘引と疎子植して再び肥ふる泥土をて露ぬかく
 ば

好壑て前法のごとく復晒て圻を候ひそ時流水を汲と
 缸平に貯盛なり 花傍云酒魔かどの頭酒の灌と○分栽
 ハ妻と秋との時おし凡宴一川と植ふは冬量の根成
 分ち繁殖り又實播みを水に生を乾こと選し秧種なれ
 ば癸ること敏あり紅白の者一室に植ふは向子のハ結
 るゆりよく一池の中に好ふと種栽をうゝを其水の多
 子りこみ愛ふあり○一法二月次蓮實の尾乃尖と斫さ
 る小窓にありと蓋実を入れて日に中をばお七月ありく白
 髪の嫩蕚を生を交み葉と出を候て別窓に田土を取
 て移植ありと貯せきハ苞小さく自乾なり常る水を盛る

盆^シ子^ニ装^ルし地綿抄云蓮を移植するは箸とて種^ハ盆^ハ花^ニ法^ニ云^ル蓮
 離^レ出^テ種^ヲ開^キ蓮^ノ子^ヲ在^リ内^ニ勿^ク令^フ水^ヲ乾^ク則^チ生^ル葉^ヲ開^ク花^ヲ如^ク錢^ノ大^キ可^ク愛^シ是^ノ子
 の茶碗蓮の類^ニてみおのづから一^種の小^蓮と^ハす
 色^ノ芙蓉^ノ先^ニ夕^ニ以^テ靛^ヲ水^ニ調^シ以^テ紙^ヲ蘸^シ花^ノ蕊^ニ上^ニ用^フ紙^ヲ最^モ之^ヲ來^レ日^ニ開^キ
 龍^ノ鉢^ニ中^ニ明^ノ年^{清^明}取^リ出^ス種^ヲ之^ヲ花^ノ開^キ青^ノ色^ノ葉^ノ磨^キ去^リ頂^ノ上^ニ些^少浸^ス
 ○地錦抄曰蓮花の開けし後を葦藎とて挿し風雨
 と浴^ス日^ヲと遮^ルる^ヲ農^政全^書蓮^ノ種^ノう^ラる^法書^ノ
 一^種の藕^ノと^ハあ^りて既^ニ述^ベる^池泥^ノ中^ニう^ラる^法ハ尚
 年^即花^ノさ^く小^根ハ深^水中^ニ種^ミ置^クる^法長^クあ^りる^法深^水
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ

う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う
 う^ラる^法ハ是^ノ蓮^ノ子^ヲ用^フ泥^中子^ノ種^ヲを池^ニ
 中^ニう^ラる^法ハ葉^ハ豆^ノ葉^トお^けバ益^盛ん^ナル^法○又^子と^う

茂らば池中子シゲ和唐の種シゲを雜シゲへら、れば唐蓮は枯るシゲや
 深きフカシ子ら、身シゲハ莖カ高くフカシ淺きアサシ子枯シゲるハ莖カひきしシゲ度シゲ
 池シゲより、身シゲハ花シゲよくシゲ茂シゲるシゲをシゲし又シゲ大豆シゲとシゲ名シゲひシゲし
 搗ツキ碎シゲて蓮シゲ根シゲ子シゲまシゲばシゲさシゲげシゲるシゲ雪シゲ花シゲ葉シゲをシゲふシゲしシゲ培シゲ氣シゲわシゲるシゲハシゲ
 し、凡シゲ蓮シゲハ人シゲのシゲ垢シゲ汁シゲ膿シゲ血シゲ六シゲ畜シゲ法シゲ獸シゲ乃シゲ血シゲ肉シゲとシゲ婦シゲ蓮シゲ池シゲ
 子シゲ此シゲ等シゲのシゲ類シゲとシゲ入シゲ身シゲハシゲ消シゲ去シゲるシゲかシゲアシゲ蘭シゲのシゲ人シゲ此シゲ脂シゲ水シゲとシゲ好シゲ
 と異シゲちシゲをシゲ混シゲ湯シゲのシゲ脂シゲ水シゲ或シゲハシゲ婦シゲ人シゲのシゲ汗シゲもシゲかシゲどシゲとシゲ蓮シゲ池シゲ子シゲ入シゲ
 バシゲ之シゲ消シゲるとシゲいシゲつシゲのシゲ○蓮シゲ枝シゲとシゲ杆シゲ乃シゲ法シゲ河シゲ内シゲ蓮シゲ生シゲハシゲ棧シゲにシゲ記シゲ
 在シゲ十一月シゲ中シゲ將シゲ嫩シゲ條シゲ剪シゲ下シゲ砍シゲ作シゲ一シゲ尺シゲ一シゲ條シゲ向シゲ陽シゲ地シゲ上シゲ掘シゲ坑シゲ埋シゲ
 之シゲ仍シゲ以シゲ土シゲ掩シゲ至シゲ正シゲ月シゲ後シゲ起シゲ條シゲ遍シゲ挿シゲ水シゲ邊シゲ林シゲ下シゲ無シゲ不シゲ活シゲ昔シゲ當シゲ年シゲ

即花とんえりり

○養花挿瓶法蓮花と瓶ハナ中シゲ子シゲ養シゲるシゲ法シゲ名シゲ花シゲ未シゲ満シゲ開シゲさシゲるシゲと
 のシゲとシゲ養シゲ花シゲ子シゲ晚シゲ景シゲ子シゲ乘シゲてシゲ水シゲをシゲ此シゲ上シゲとシゲ線シゲ子シゲてシゲ紫シゲをシゲ結シゲ
 してシゲ剪シゲぎシゲしシゲてシゲ風シゲ雨シゲかシゲすシゲ時シゲハシゲ瓶シゲ子シゲ挿シゲむシゲるシゲ潤シゲと
 するシゲやシゲうシゲみシゲ霞シゲをシゲ剪シゲぎシゲしシゲ折シゲりシゲあシゲ申シゲふシゲをシゲ剪シゲぎシゲるシゲはシゲ剪シゲむシゲにシゲ乃シゲ
 竅シゲよりシゲ水シゲ入シゲしシゲバシゲをシゲ根シゲ損シゲ傷シゲむシゲ又シゲ剪シゲぎシゲるシゲをシゲ湯シゲをシゲハシゲ脂シゲ出シゲるシゲ精シゲ
 氣シゲ脱シゲくシゲ固シゲ折シゲをシゲ結シゲむシゲるシゲてシゲ剪シゲぎシゲるシゲをシゲのシゲあシゲるシゲはシゲ倒シゲりシゲなシゲ
 してシゲ莖シゲのシゲ中シゲにシゲ水シゲをシゲ連シゲ子シゲ沃シゲすシゲのシゲ身シゲをシゲ後シゲ折シゲりシゲとシゲ割シゲ大豆シゲと
 内シゲろシゲをシゲ不シゲとシゲ結シゲ留シゲてシゲ瓶シゲにシゲ挿シゲむシゲしシゲ一シゲ泥シゲ子シゲ莖シゲ池シゲ中シゲにシゲ池シゲ泥シゲをシゲ
 充シゲ塞シゲぎシゲ其シゲ口シゲをシゲ髮シゲ毛シゲをシゲ纏シゲりシゲてシゲ瓶シゲ子シゲ挿シゲむシゲてシゲ後シゲ水シゲをシゲ澆シゲくシゲ至シゲ

し流どを捲糸かど付子嫩て凋やをし好子む葉の莖中
 子ほ皆竹條と入るそ摧拗を拮拮てその口を壁詰りわ端
 と火みて燻り挿あり折口を結吹燻ざり多ハ葛敷き
 屋をし又瓶中子沸湯を入り花を立て手懸氣の醒ぬや
 う子瓶口を穿き花開きやらく紫を厚きぞ又夏秋の
 間ハ瓶中の水子瓦片と紅をちるほどに焼きあして投
 るハ瓶水久く臭らざるとるるるる○瓶史云花之有使
 令猶中宮之有婢御閨房之有妾媵也蓮花以山礬玉簪為
 婢木樨以芙蓉為婢又生花の孝子蓮かどのおとき水料
 子大山木と挿交て一ッみえると瓶子さしをといつれど

蓮花子眼て樹類立合吹分りる又四季の中六月ハ
 百合蓮花を挿べし○懸壁瓶釣花瓶并子砂をの盆に蓮
 を挿バ挿て久子培ぐと子と母る好子只根こし子採
 る挿子子根を柱境て寫像多子好く其莖中に載取
 入て管束収束斜に小窓すりととと致る○又蕪菖と保
 ち又ハ花辨を墮ざると志先んと致ば蜘蛛の絲をそと二
 まちあはれと巻子あは花の盛を助長さるを屋し此等新秘
 として為芽好法あり

比志古事

美須毛 秘藏 抄己屋比池乃岸吹風のゆめ
菱 字典或作菱 廠據 菱角 以上兩
水栗 古文 作菱 字典 菱 字典或作菱
水菱 本 蒙荃 沙角 細 紫角 翻雞 子陵 雅郭注
蟾蜍股 水客 胡蓮兒 蒙古方言 以
穿萍 名物 方言

此の比志といふハ其寶の稜角わりて畏といふ應神
紀子河派江乃菱殼の刺るゝ如くに皇極紀慎の字と比
志といふ今云比志介流也と注し和名鈔征戰具引六
韜又兩岐鏡讀比志といふ又鏡施棹頭因以取魚也此
と比志といふハ其又の魚と刺るゝとてあり

枕冊子に菱菱いげをとおそろしきものよか
るものこ乃既而いづる乾如ど國柱按當時ハ總髪をれ
ハ形も整の口と子被りわゝるゝ畏ろゝあちう
ち子菱もいづるをていふ比志といふの義著一又
蒺藜亦比志といふ其刺人を傷るの義利なるをいふ
そありける並に皆怖れをいふ言ふりヒともカともい
ひしるゝいづし是比志といふか加しと相解し
と俗子ヒツ通證曰菱蓋鱗羊蹄也と志といふ其状と
とて名を得たり又武陵記云四角三角曰菱兩角曰菱
通曰分菱與花鏡云兩角而小曰沙角○菱ハ池沢比中子
菱為二物非

生し春月その葉水上に浮出る形銀杏子似る少扁厚く
 出りわす邊子鋸齒わの葉下地茎子股わの蟾比股の如
 しを茎系ふ両相一長りれハ一短く五子して出の
 蝶の翹かやそ形水面子支散て冬く座と好す紫小紫
 重複六と絶てふし夏月そ葉代間に小白花日と背て完
 るり昼ハ會と宵短く月子晒て移る酉陽雜俎云菱
 開向日故花落て夏す水子向て漸と熟り夏子稜峭
 菱寒艾暖花落て夏す水子向て漸と熟り夏子稜峭
 わりあは五角三角或は四角六角或は角なきものあり
 此角なきもの冬河菱といふ冬河ふ子産り一純紫実
 俱子小ものあり綱目所謂野菱其角硬直刺人其色嫩青
老黒又花鏡云最小而四角有刺者曰刺

菱花紫色と云是なり又一種葉實俱に大なるものあり
 本州所謂家菱種干陂塘角粟而脆亦有兩角彎卷如弓形
 者其色有青紅紫老則殼黒而硬墜入江中謂之烏菱是也
 了又學圃雜疏云菱即菱也而多種云々産郡城者曰哥窟
 蕩産於崑山者曰婁縣皆佳甚須其種之○洞真記此物
 云靈池有浮根菱根出水上葉沈波下亦名青冰菱此物
 既に久ふり少採取やり万葉集を因飲るものあり
 池なる菱れうさつむとや味がみ純ぬゆらん延喜神
 今食料菱子二升十二月以播又新嘗祭料菱子蓮子各二
 升と云えり○天皇夏の御服引衣の三重禪了小章
 は菱れ重文あり重は多き幾かて赤手圖は崎雄の舟の
 章と花菱の角乃最鋭利形志るる章子をわする云卿
 の夏に衣半臂指貫此章あり又華族久我家の服飾

子蔓文ヒシヤクと用られ曼ワカヒと稱ナメ一俗ワカヒ子輪ワカヒとナメつゝこ
の章アキは蔓ヒシヤクの水上ツラに蔓ヒシヤクと浮ウカひ直ナまツラつが輪ワカヒの形ナメ也
向ムカふ此コノ稱ナメハ向ムカふ蔓ヒシヤクの形ナメ也向ムカふ蔓ヒシヤクの形ナメ也
又存タラシりてハ幡ハタ大オホ神カミの由ユ徳トクあり此コノ文ナメと用ナメらるナメるやと
向ムカふハ諸モトありぬ説ナメありむナメりし子蔓ヒシヤク花鏡ハナカガミ也ナメ、各イ也ナメ乃
文飾ヒシヤクの蔓ヒシヤクと模ツツしつゝがナメるナメし菴ニの服ニありとと
て水涼ミヅスズシの義ナメも雨アメり川カハ亦オホ要ナメ一ナメの各ナメ状ナメもナメり威ナメ儀ナメを示
況ナメ系ナメとをナメおナメろナメろナメれ威ナメ靈ナメ仙ナメと鑣ナメ唐ナメ料ナメとて衣ナメ紋ナメも用ナメら
るナメとナメ同ナメし例ナメありナメんナメ終ナメ威ナメ靈ナメ心ナメの所ナメもナメつナメあナメづナメし○凡ナメ根ナメハ
皆ナメ三月ナメ蔓ナメと生ナメして水ナメの深ナメとナメあナメるナメハ水上ナメにナメらナメるナメ

蔓ヒシヤク○蔓ヒシヤクハ老ナメらナメるナメ子ナメと他ナメ中ナメに撒ナメハ生ナメるナメ也ナメ解ナメし又
自オホ水ナメ中ナメに墮ナメつナメるナメ生ナメでナメ其ナメ實ナメ嫩ナメとナメハ制ナメ食ナメハ老ナメてナメは蒸ナメ煮ナメ
て食ナメふナメづナメし蔓ヒシヤクハ暴ナメし乾ナメし菜ナメもナメ剥ナメきナメせ粥ナメ候ナメとナメなナメるナメよ
し其ナメ莖ナメも亦ナメ暴ナメして収ナメれ米ナメもナメせ飯ナメとナメなナメりて荒ナメ飯ナメの飢
と飯ナメふ又夏ナメ秋ナメの間ナメ葉ナメと根ナメとナメ去ナメり湯ナメ焯ナメて油ナメもナメあナメるナメ又
糟ナメ食ナメとしてナメをナメおナメし致ナメ富ナメ全ナメ書ナメハ野菜ナメ中ナメ第一ナメ品ナメ也ナメとい
へりナメ國ナメ語ナメ子ナメ屈ナメ到ナメ嗜ナメ小説ナメハ後ナメ嵯ナメ峨ナメ天皇ナメ御ナメ宇ナメの時ナメ常ナメ陸
國ナメ子ナメ蔓ヒシヤクとナメ譯ナメしナメるナメことナメ或ナメ志ナメるナメしナメらナメれナメ常ナメ陸ナメ國ナメ誌ナメ及ナメ正
史ナメとナメ檢ナメ考ナメすナメらナメるナメ此ナメもナメなナメし○實ナメとナメ肥ナメさんとナメ欲ナメるナメハ夏
月ナメ葉ナメ子ナメ糞ナメとナメ澆ナメ多ナメばナメ更ナメに美ナメ花ナメ鏡ナメ云ナメ池ナメ塘ナメ内ナメ若ナメ欲ナメ澆ナメ糞ナメ用ナメ粗

大毛竹打通其節貯肥於内注之水底若以手種者能令其實深入泥中再灌以肥未有不盛者也又云若有萍荇相雜須速撈去則後出始茂也而已
氣味甘く性平なりて毒無し○主治中と毒くし酒毒は解く多く食へば陽氣と損ふ

成形圖說卷之二十八終

